

第44回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会 新潟地区一次・二次予選会 大会特別規則及び申し合わせ事項

1 大会特別規則

- (1) トーナメント戦とし、3位決定戦は行わない。
- (2) 各試合とも6回戦とし、1時間30分を過ぎて新しいイニングに入らない。
 - (ア) 決勝戦も同様とする(全国大会から市町村支部の大会まで一律に適用する)
 - (イ) 後攻チームが勝っている状況で制限時間に達した場合は、その時の打者の打撃中にその旨を両チームに通告し、この打者が打撃を完了して試合終了とする。
 - (ウ) 暗黒・降雨などで試合続行が不可能な場合は、5回終了または、試合開始から1時間30分を経過したら試合成立とする。但し、同点の場合は、一次予選の決勝及び二次予選の準決勝、決勝は再試合とし、それ以外の試合は抽選により勝敗を決する。
 - (エ) 上記(ウ)の場合で、5回に満たず試合開始から1時間30分を経過していない場合は、競技者必携の特別継続試合の規定は適用せず、すべて再試合とする。
- (3) 6回を終了または制限時間が過ぎても勝敗が決定しない場合。
 - ①一次予選の決勝及び二次予選の準決勝、決勝は延長戦を行わずタイブレークに入る。
※タイブレーク
 - (ア) タイブレークは競技者必携48ページにより、1イニングを行い得点の多いチームを勝ちとする。なおも勝敗が決定しない場合は、抽選により勝敗を決する。
 - (イ) 規則によって認められる選手の交代は許される。
 - ②上記以外の試合は、タイブレークは行わず抽選により勝敗を決定する。
※抽選方法は競技者必携244ページによる。
- (4) 5回終了時点で7点差が生じた場合はコールドゲームとする。
ただし、それ以前の大差の場合、両監督による協議のうえ試合を打切ることがある。
- (5) 変化球については競技者必携51ページによる。
- (6) 投手の投球数制限について
 - ①肘・肩の障害予防のため、1人の投手が1日に投球できるのは70球以内とする。
 - ②70球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで、又は打撃を完了する前に攻守交代になるまで投球できる。投球制限には、タイブレークの投球数を含む。
 - ③1度降板した投手は、70球に達するまでその試合やその日の試合に再登板できる。
 - ④投手の投球数には牽制球や送球とみなされるものは数えず、実際に打者へ投球した球数とする。
 - ⑤4年生以下は1日60球とする。

2 用具(バット・捕手防具・ヘルメット)について

- (1) 金属、ハイコン(複合)バット、打者、次打者、走者のヘルメット及び捕手のマスク、プロテクターレガース、は「JSBBマーク」のついた公認のものを使用しなければならない。
- (2) 捕手用ヘルメット及び打者、次打者、走者のヘルメットは「SGマーク」のついた公認のものを使用しなければならない
- (3) 競技者必携63ページ及び64ページの規定に反するグラブは使用できない。

3 安全対策

- (1) 素振り用リングは抜ける危険があるので使用を禁止する。(グラウンドに持ち込まない)
- (2) 捕手は危険防止のため、必ずマスク(スロートガード付)・プロテクター・レガース・ヘルメット・ファールカップを着用すること。(控えの捕手とブルペン捕手も同様とする)
- (3) 打者、次打者、走者及びベースコーチとも両側にイヤラップの付いたヘルメットを着用すること。
- (4) ボールボーイ、バットボーイもヘルメットを着用すること。

4 塁審

帯同審判制とし、必ず各チームより2名出すこと。

<1日2試合> 第1試合＝第2試合から。 第2試合＝第1試合から。

<1日3試合> 第1試合＝第3試合から。 第2試合＝第1試合から。
第3試合＝第2試合から。

<1日4試合> 第1試合＝第2試合から。 第2試合＝第1試合から。
第3試合＝第4試合から。 第4試合＝第3試合から。

<1日5試合> 第1試合＝第2試合から。 第2試合＝第1試合から。
第3試合＝第5試合から。 第4試合＝第3試合から。
第5試合＝第4試合から。

※ 二次予選の準決勝以上は、連盟審判員の3審制で行う。

※ 試合の記録については、各試合の帯同審判員4名の内の1名が当たる。

ただし、二次予選準決勝、決勝を除く。

5 試合開始時間

1試合目 9:00 4試合目 14:15

2試合目 10:45 5試合目 16:00

3試合目 12:30

※ただし、同一チームの試合が連続する場合は、次の試合を30～60分程度遅らせる。

※第2試合以降のチームは開始時刻の60分前までに会場に集合し大会本部へ到着を届け出ること

※打順表の提出は第一試合に出場のチームは試合開始予定時刻の30分前までに提出する。

第二試合以降のチームは前の試合の2回終了時まで提出し、攻守を決定する。

提出枚数は5部とし、控え選手もフルネームで記入する。その際各チーム試合球を2球ずつ提出する。

打順表と登録名簿の照合後、会場責任者と審判員の立会いのもと速やかに攻守を決定する。

6 補助員について

(1) 投球数をカウントするための補助員(20歳以上)を各チーム2名ずつ選出すること。

(2) 自チームの当該試合の開始予定時刻10分前に、本部に集合し打ち合わせを行う。

<役割>①守備チームの補助員・・・投手の投球数をカウントして記録する。

②攻撃チームの補助員・・・カウントの補佐。 ※なお、攻守交代の際に役割も交代する。

7 その他の注意事項

(1) ベンチ内での携帯マイクの使用は禁止する。メガホンは監督のみ使用を認める。

(2) 礼儀に反するような行為はつつしむこと。(言動、鳴り物、携帯マイク等)

(3) 抗議できる者は、代表指導者(監督)か当該プレイヤーのみとし、規則適用上の問題に限る。

(4) ベンチは、組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。ただし同一チームが2試合続く場合はこれにあらず。

(5) ボールボーイは各チームから2名出すこと。(登録選手以外でも良い)

(6) シートノックは行わない。

(7) 監督は、アピールや選手交代などをする時は、その身分を明らかにするために、グラウンドコートを脱いで申し出ること。(背番号の確認)

※監督のタイム及び攻撃のタイムは監督のみとし、コーチやその他の者が代理することはできない。また、選手が伝令として伝えることもできない。

(8) ホームベースサイズの拡大について、2022年は全国大会のみで実施。